



コミュニティだより



発行 登米市吉田公民館
(指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会)

TEL : 0220-55-2124
FAX : 0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



江浪行政区防災訓練実施【10月16日(日)】

江浪行政区では行政区行事として毎年防災訓練を実施していましたが、コロナ禍により2年中止したものの3年ぶりに吉田体育館で実施しました。地区民35人が参加して市消防署南出張所の指導を得て、地震災害や降雨災害への心構えを学び、実際に応急救護、AEDを使った心肺蘇生、消火器使用の各実地訓練を行いました。参加者の皆さんは訓練に真剣に取り組んでおりました。「災害は忘れたころにやってくる。」を心に留めて、訓練を実施しているとのことでした。



吉田先人大学 第2回学習会グラウンドゴルフ大会【10月5日(水)】



心配していた雨雲も学級生の皆さんのパワーで何処へやら!? 総勢63名の参加で吉田先人大学グラウンドゴルフ大会を開催しました。広々としたグラウンドに、ゴールポストにホールインした音と、喜びの音があちらこちらで響き楽しい一日を過ごしました。

吉田陶芸教室 第2回学習会【10月14日(金)】



(講師：東和町瑞樹窯
笠 政彦 先生)

世界に一つだけの作品? 作りに思いを馳せ、粘土(赤土、白土)選びから始まってろくろや板づくりでそれぞれに作業開始。途中で「先生ここからどうしたらいいのですか?」と先生のお手伝いを頂き作品完成。作品の色を決定して12月の作品完成を心待ちにしている学級生の皆さんです。

焼き上がった
前回の作品の数々



秋の歩け歩け大会【11月5日(土)】

毎年恒例の秋の歩け歩け大会を11月5日(土)に開催しました。当日は天候に恵まれ、62名が参加。2時間程、平筒沼いこいの森を散策しました。参加者の方からは「良い運動になった。」「紅葉がとてもきれいでした。」「色々な植物を見ることができた。」との声があり、平筒沼の秋を大いに満喫したようでした。



裏面もご覧ください



米山中学校区合同防災訓練【11月12日（土）】

米山東小学校を舞台に小学生と中学生及びコミュニティ、消防団、社会福祉協議会等の合同防災訓練を昨年に引き続き実施しました。吉田地区の非常災害時の避難所は大雨被害の場合のみ米山東小学校になりますので、大雨被害を想定しての訓練内容でした。はじめに各行政区ごとに集まり行政区長や消防団員から危険個所の確認や水害についての話があり、次に小低学年、4・5年生、6年生・中学1年生の3つのグループに分かれて、読み聞かせボランティアや社会福祉協議会等の協力を得て防災かるたやクロスロードゲームなどを行いました。中学2・3年生は体育館で避難所の設営と運営訓練を行いました。設営訓練では室内用テントの組み立てや膨らませたエアーマットを敷く作業を手際よく行っていました。



米山・中津山・吉田公民館合同歴史講演会 開催 【11月14日（月）】

3公民館合同で身近な歴史を題材にした講演会を11月14日（月）中津山公民館で170人もの参加者を得て開催しました。今年度は短台谷地の開墾を主題にして「登米耕土の生立ちとその特徴」と題した演題でNPO法人めぐりねっと21理事長（宮城大学名誉教授）の加藤 徹氏に講演いただきました。「登米市平野部は一大湿原で江戸時代に新田開発が始まった。短台谷地は遊水地の役割を担われ、石巻と北上川の舟運を守るために300年間犠牲になった。昭和に入り他県の資本を取り入れ紆余曲折を経て開墾され、農家のたゆまぬ努力と河川改修による治水の安定化、土地改良事業等の効果的な活用により、県内随一の米生産地となった。今や登米耕土を確立した。これからも守り続けてほしい。」と講演し、皆さんメモをとりながら聞き入っていました。また、講演に先立ち平成2年に制作された視聴覚教材「短台谷地の開墾」や開墾地の現在をドローンで撮影した映像等を上映しました。講師からの要請で行政機関等（市産業経済部、県振興事務所・土木事務所、土地改良区）の若手技術職員の研修の場としましたので、多くの職員が参加して熱心に勉強していました。



館長の戯言（ざれごと）No. 13 「まなぐ、おどげ」

（参考図書：方言に生きる古語）

わが公民館職員のKさんの赤ちゃんに会ってきましたが、「まなぐこパッチリしためんこい顔したあかびこ」でした。今回はめんこい顔の「まなぐ」と「おどげ」を取り上げます。

「まなぐ」とは古語の「まなこ」がなまったもの。「まなこ」は目の子で目の中の黒目のことで瞳の意味、それが目そのものを表すように変化して伝わったようです。東北地方、北関東、新潟で使われています。ちなみに目の蓋がまぶた（まなぶた）、目じりがまなじり、目の表情・目つきがまなざし、目の毛がまつげです。

次に「おどげ」とは下あご又はあごの先っぽをさす語で、漢字で「頤」読みは「おとがい」で、れっきとした医療用語です。その「おとがい」が「おどげ」に変化して使われています。

※古語＝奈良・平安時代に使われていたことば。